

# 廃品回収にご協力下さい

消費生活ボランティア活動として再資源となるゴミの回収を次により実施いたしますので、皆さんのご協力をお願いいたします。

●実施期日  
七月三十日(月)

善久・山田・寺地・寺地団地  
・立仏・焼酎団地・柳作・川原・鳥原本村・鳥原大明一部  
黒鳥・緒立・北場↓A地区  
七月三十一日(火)  
大野・木場・板井・金巻・興野・鳥原新地・蓮方団地・鳥原大明一部↓B地区  
八月二十七日(月)  
A地区  
八月二十八日(火)  
B地区

●取扱い品名  
古新聞・古雑誌・古布・あきびん・あきかん・鉄屑類

●実施方法  
(1)ゴミ集積場に午後一時までに出しても構いません。一時から業者が回収いたします。  
(2)各地区時間を指定しますので中学生に積み込みを手伝っていただきます。

●注意  
(1)古新聞は古新聞・古布は古布と種類別にきちんと整理する。

●主 催  
黒埼町役場環境課・産業課  
黒埼中学校・各自治会(保健委員)・婦人会・消費生活改善協力委員

●利 益  
黒埼中学校へ全額寄付いたします。

(雨天順延)



▲限界に来たゴミ埋立地

## 燃えないゴミ埋立地・再利用、自家処理を

分別収集を始めてから三年、燃えるゴミはどうか、一部事務組合を設立し、亀田町に建設した焼却場で処理できるもの、ガラスや空き缶など燃えないゴミの埋立地(立仏西側の三枚目溝)に投棄してきましたが、もうここも限界に達してしまいました。

町では、数年前から埋立地を捜しているのですがなかなか良い候補地が見つかりません。しかし、

なんとかしなければならず、今日なお、一生けん命、他市町村と協議を重ねたりして、埋立地の確保を図るため努力を続けている現状です。

資源の再利用が叫ばれている今日、むやみにゴミとして出さないで、捨てる前にもう一度考えてみて下さい。再利用できるものは再利用で新しく衣替えすることも可能ではありません。そして、自家処理

もう限界なんです。



# 世界の米 六万円 日本米 三十万円

## アメリカの農業 最終回 青木 弘



今迄、カリフォルニア稲作の概要を述べてきたが日本の稲作とは比較にならない程、簡単に効率よく行われている。そして、安く出まわった米の約60%は輸出されている。

日本の米がいくら余っても輸出されないのは海外市場において安い米にかなわないからである。世界の1トナリ米価格は約6万円、日本の米は約30万円。

3月5日、一年間苦しくも楽しかった農場を出発。最終旅行ということで、まずロスアンゼルスで友人と落ち合った。のどかな町で一年間のんびりと過ごしたせいか、ロス町の印象は悪かったが、日本人町で食べたラーメンの味は忘れられない、そこで?

3日過ぎた後、ジャズのあるニューオリンズへ飛んだ。ミシシッピ川は雄大だったが、やはり汚れていた。

ニューオリンズから今度はバスで西部へと向った。このバスに乗

写真は帰国の途中ケランドキヤニオンで、くつろぐ青木さん。

つたお陰でアメリカの大きさを体で知ることができた。ロスからニューオリンズまで飛行機で約3時間であったが、集合地のサンフランシスコに着くまでバスに約80時間以上も乗っていた。

ヒューストン、グラス、オクラホマシティー、アルバカーキ、フエニックスと立ち寄ったが、どこも荒野の下真中に町ができていて西部の町という感じがした。

フエニックスの夜は、人通りも少なく静かであったが、その中を日本人らしきグループがウロウロしていた。どこかで見たことのある顔だと思ったらヤクルトスワロイスの選手達だった。その後またデズニランドでバツタリ逢ったものだから、アメリカも広いようで狭いなと思った。

フエニックスからケランドキヤニオンへ向った。そこで9人乗りの小型飛行機に乗ってケランドキヤニオンを空から見たが、生きた心地がしなかった。それから、海が美しく、サンディエゴで2・3日過ぎた後、集合地であるサンフランシスコへと向った。さすがに坂の町だけあって、よい足の運動になった。そして3月27日、小雨降るサンフランシスコを後に成田行き001便の人となった。

おわり

## お米アラカルト。すくれた「タンパク源」

タンパク質は、体の血や肉をつくる大切な栄養素です。わたしたち日本人は、タンパク質摂取量の約四分の一をお米からとっています。ところで、タンパク質は、約二十種類のアミノ酸でできています

が、このうち八種類を必須アミノ酸といいます。この必須アミノ酸は、他のアミノ酸のように体内で採取された栄養素から合成することができないので、食物として摂取しなければなりません。摂取量が不足すると発育や健康に障害をきたします。

この必須アミノ酸の必要量が全部含まれた理想的なタンパク質を「〇〇(タンパク質)」として、各食物を比較してみると、鶏卵は一〇〇、牛肉が八二・牛乳七九、大豆七二、魚六九、ジャガイモ五一、ホウレンソウ八五などとなります。米は、という七〇。

米のタンパク質は魚よりも高く、牛乳や大豆と肩を並べるほどの優秀さです。

お米は、栄養的にみても、まさに一級品の主食といえます。

の決まり文句です。

電話では、顔の表情や態度の助けを借りることができないので、声の調子や言葉遣いに十分な敬意が伴わないと相手に不快感を与えることがあります。

また、電話を取り次いだり、電話の内容について上司や同僚と相談したりするときは、送話口を手でふさいで内輪の話が先方に伝わらないように気を配ることも大切です。

こちらから電話をかけるときは特に相手の立場を考え、夜であれば、「夜分おくるつろぎのところ、おそれいります」多忙な人を電話口と呼び出したときは、「お忙しいところをお呼び立てして申し訳ございません」などと、ひと言あいさつの言葉を添えるのがよいでしょう。

## 正しい敬語 4 電話の応対

電話がかかってきたら、すぐ受話器をとって、「はい、〇〇課(〇〇商店)です」と受けるのがビジネスの常識です。

自分にかかってくるのではない場合は「少々お待ちください」と言って取り次ぎをします。取り次ぐ相手が不在のときは「〇〇は、ただいま席をはずしておりますが」先方の名前を聞くときは、「失礼ですが、どなたさままでしようか」声が小さくて聞かれないときは「すみません、電話が少々遠いようすが、繰り返して言ってもう一度おっしゃっていただけませんか」

これらは、電話で応対する場合

## あなたも献血を

# 夏は血液ピンチ

## 愛の献血 助け合い月間

わたしたちの体は、血液がなくては、その生命を維持することができません。といて、いざというときに人工的に血液を作り出せるかというと、もちろん答えは「ノー」です。手術や治療に欠かせない輸血用血液のすべては、献血に頼らなければなりません。

一年のうちで、最も輸血用血液が不足するのは、夏場です。山や海などレジャーに出かける機会も多く、帰省する人々もあって、事業所や町ぐるみの団体献血が大変少なくなり、献血が減ってしまふのです。

一方、輸血が必要なことは、夏場であってもふだんとほとんどかわりなく、このため、手術を延期しなければならぬ事態も過去に発生しています。

輸血といえば、かつては血液を丸ごと輸血していましたが、今日では、輸血の効果を高めるために赤血球、血小板、血しょう、などを成分単位に分離して、それぞれを別々の患者さんに使うようになっていきました。そして、採血、検

査、分離は一日で行わなくてはならず、その上、保存があまりきません。患者さんの生命を救うには、あなたの献血が頼りです。今年に入ってから、私たちの町でもみなさんのご協力でのべ百八十人三万六千CCの献血がありました。

七月は「愛の血液助け合い運動月間」です。血液の助け合いに、あなたも参加を。

七月十七日献血車「ゆうあい号」が役場前 午前十時から正午まで  
●小平公民館前 午後一時〜三時、一人でも多くの善意をお願いします。

## 犬の引取りと 指導・取締り

保健所では、不用犬の引き取り、指導、取り締り業務を次の日程で行います。放し飼いは、絶対しないようにお願いします。

引取り月日 七月十八日  
取締り月日 七月十九日、二十三日  
尚、引取りは日程日の前日まで役場環境課まで問い合わせ下さい。